

杉並総合高等学校 令和3年度 芸術科 音楽Ⅰ 年間授業計画

教 科：芸術科 科 目：音楽Ⅰ 単位数：2単位

対象学年組：(第1学年1組～6組)

使用教科書：(改訂版 高校生の音楽1 / 音楽之友社)

使用教材：(改訂 音楽通論 / 教育芸術社)

	指導内容	音楽Ⅰの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	<p>●器楽 手拍子によるアンサンブル 『BLACK JACK/伊藤高明』</p> <p>●共通事項 理論：音の長さについて</p>	<p>高等学校学習指導要領(平成30年告示)より(以下同)</p> <p>A表現 (2)器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり (ロ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(イ)から(ロ)までの技能を身に付けさせる。 (イ) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能 (ロ) 他者との調和を意識して演奏する技能 (ハ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能</p> <p>[共通事項] イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解させる。</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p> <p>筆記試験 実技試験</p>	4
5月	<p>●創作 ルールに基づいた簡単なリズム 創作</p> <p>●共通事項 理論：音の高さについて</p>	<p>A表現 (3)創作 ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。</p> <p>[共通事項] イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解させる。</p>	<p>作品提出 創作への取り組み 創作の振り返り状況</p> <p>筆記試験 実技試験</p>	4
6月	<p>●器楽 ギターによる旋律奏</p> <p>●共通事項 理論：反復記号について 理論：音程について</p>	<p>A表現 (2)器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。 イ 次について理解するさせる。 (イ) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり (ロ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (イ) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>[共通事項] イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解させる。</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p> <p>筆記試験</p>	8
7月	<p>●鑑賞 ジャズ</p> 	<p>B鑑賞 ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴けるようにする。 (イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値 (ロ) 音楽表現の共通性や固有性 イ 次について理解させる。 (イ) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり (ロ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり</p>	<p>鑑賞への取り組み 批評</p>	2

	指導内容	音楽Ⅰの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9月	<p>●器楽 ギターによるコード奏</p> <p>●歌唱 ヴォイスアンサンブル『野菜の気持ち』</p>	<p>A表現 (2)器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (7) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり (4) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の技能を身に付けること。 (7) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>A表現 (1)歌唱 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (4) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり (7) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (4) 他者との調和を意識して歌う技能 (7) 表現形態の特徴を生かして歌う技能</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p> <p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p>	6
10月	<p>●創作 ヴォイスアンサンブル創作</p> <p>●鑑賞 映画音楽</p>	<p>A表現 (3)創作 ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。 イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解させる。 ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (7) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能</p> <p>B鑑賞 ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴けるようにする。 (7) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (4) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値 イ 次について理解させる。 (7) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり (4) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり</p>	<p>作品提出 創作への取り組み 創作の振り返り状況</p> <p>鑑賞への取り組み 批評</p>	4
11月	<p>●創作 短歌や和歌を詞にした簡単な作曲 (国語科との関連付けを図る)</p> <p>●共通事項 理論：和音について</p>	<p>A表現 (3)創作 ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫させる。 イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解させる。 ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (4) 旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能</p> <p>B鑑賞 イ 次について理解させる。 (7) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴</p> <p>[共通事項] ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えさせる。</p>	<p>作品提出 創作への取り組み 創作の振り返り状況</p> <p>筆記試験 実技試験</p>	6
12月	<p>●器楽 ボディパーカッション『ROCK TRAP』 (保健体育課との関連付けを図る)</p>	<p>A表現 (2)器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (4) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり (7) 様々な表現形態による器楽表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(7)から(9)までの技能を身に付けさせる。 (7) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能 (4) 他者との調和を意識して演奏する技能 (7) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p>	4

	指導内容	音楽 I の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	<p>●歌唱 斉唱『校歌』</p> <p>●器楽 キーボードによるコード奏</p>	<p>A表現 (1)歌唱 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (7) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</p> <p>A表現 (2)器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の技能を身に付けること。</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p> <p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p>	4
2 月	<p>●歌唱 合唱『校歌』（アカペラ合唱） 合唱（クラスごとの合唱）</p> <p>●その他 著作権について</p>	<p>A表現 (1)歌唱 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (7) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり (イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (7) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 他者との調和を意識して歌う技能</p> <p>3 内容の取扱い (11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p> <p>筆記試験</p>	6
3 月	<p>●歌唱 合唱『校歌』（アカペラ合唱） 合唱（クラスごとの合唱）</p>	<p>A表現 (1)歌唱 ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。 イ 次について理解させる。 (7) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり (イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり (ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴 ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の技能を身に付けさせる。 (7) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 他者との調和を意識して歌う技能</p>	<p>実技試験 練習への取り組み 練習の振り返り状況</p>	2